

令和8年度
京都市立岡崎中学校

校長：川野篤彦

学校教育理念

すべての子どもの
学習機会と進路の保障

【令和8年度 岡崎中学校学校教育目標】

**「人とともに社会を生きる力」「自己を知り、律する力」「課題を見つけ、解決する力」を高め、
確かな学力・豊かな心・健やかな体を備えた生徒の育成**

- ① 「主体的・対話的で深い学び」を重視した授業を展開し、生徒の学びの質を高める。
- ② **多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく**個別最適な学びや、協働的な学びを実現する。
- ③ 日々の授業と家庭学習との連動を図り、生徒に自学自習の**姿勢**を定着させる。
- ④ あらゆる教育活動で**「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」の必要性を理解させ、
子どもが共に「学びあう」ことにより人権教育の基盤を育成する。**
- ⑤ 互いを認め合い励まし合う集団作りに向け、生徒の主体的・自発的な活動を尊重し生徒会活動の活性化を**推進する**。
- ⑥ 「命を大切に作る心」や「他人を思いやる心」、「感動する心」など人間性豊かな人権尊重の精神と態度を育成する。

【校訓：自由・自律・友愛】

『自由』：何ものにも阻害されず、自己の能力を発揮して伸ばす自由

『自律』：他者に頼ることなく自ら思考判断し、適切に行動する自律

『友愛』：他者を認め、人権を尊重する友愛

生徒に身につけさせたい資質・能力

(広い視野と豊かな感性)

地の利を生かしてグローバル社会で活躍する生徒の育成

- ・「自分の考えや思いを伝える**力**」 (コミュニケーション能力)
- ・「他者の意見や思いを理解する**力**」 (異文化の尊重, 世界視野)
- ・「互いにつながり合える**力**」 (オープンな考え方)

「英語教育重点ブロックの指定」

- ①ALT専属配置の有効活用
- ②英語教育の小中連携

「英語教育重点ブロックの取組」

- ①モーニング・イングリッシュ・シャワー
 - ②イングリッシュ・カフェの開設
- ALTと生徒の交流を図れる機会を増やす。

「地域資産の活用」①

銀閣寺 (世界文化遺産)、平安神宮、南禅寺、哲学の道
世界各国からの訪日外国人

「地域資産の活用」②

外国にルーツを持つ保護者、聴講生との交流
留学生 (国際交流会館、京都大学)

目指す学校づくり（学校像）

「（家に帰って）明日も行きたい、
（朝起きて）今日も行きたい学校」

- 徹底的に生徒，保護者と「向き合い」「寄り添い」「学び合う」学校づくり
→思春期の中学生とその保護者に向き合い，将来への確かな歩みを進める
- 義務教育9年間の成長を温かく，時に厳しく見守れる学校づくり
→子どもの成長は「螺旋階段（失敗と成長の繰返し）」
→中学校卒業までに「社会に羽ばたける素養を培う」
- 身近で存在感のある学校づくり
→様々な教育活動の積極的な発信と地域との交流による信頼関係づくり

目指す子どもづくり（生徒像）

- 自分から挨拶が出来る、時間を大切にできる、守れる子ども。
→子どもは「社会を形成するピース」です。将来、社会人に求められる、「挨拶・礼儀」の習慣化を図る。
- 自分の将来展望を描き、そのための課題を探し、実現に向け努力する子ども。
- 多様な他者と共に生き、共にまなび、人権文化の担い手となる子ども。
→多様性を理解、受容する姿勢の習得。
- 自分の考え、思いを「ことば」「態度」で表現できる子ども。
- 自分の命・健康を大切にしてい、心身共に健やかに育つ子ども。

目指す教職員（教職員像）

- **社会人として**挨拶ができる、時間を守れる、言葉を大切にできる教職員。
- 教育に携わる一人として、「**志**」「**責任感**」「**謙虚さ**」をもった教職員。
- **生徒・保護者と心が通じ合える**教職員。「**優しさ**」と「**厳しさ**」をもった教職員。
- **一人ひとりの生徒の内面（性格）・背景（家庭事情、生い立ち）の理解に努め、**
AIには不可能な「**生き方に迫る指導**」ができる教職員。
- 「**チーム（組織）**」として教育課題を共有し、互いに共感・協働できる教職員。